

等身大の絵本を囲んで静かに本の世界へのめりこむ園児たち



絵本の世界に瞳キラキラ

子ども読書の日ミニコンサート

4月23日、カルチャーセンターで「絵本の読み聞かせミニミニコンサート」が開催され、乳幼児の親子連れや園児など約60人が絵本に触れて楽しいひと時を過ごしました。この取り組みは子ども読書の日になみ、子どもたちに多くの本に親しんでもらおうと企画され、今年で2回目。参加者は、でこぼこ会のパネルシアターをはじめ、小坂小学校・トトロの会の音楽演奏や人形劇などを鑑賞した後、会場に用意された約200冊の絵本や紙芝居を手にとって、静かにページをめくり本の楽しさに瞳を輝かせていました。

山菜のフルコース三昧

山菜を食べよう会発足

隠れた山菜の宝庫として知られる田代地区木戸屋で4月24日、木戸屋の山菜を食べよう会（松原公生会長）が発足しました。過疎化が急速に進む木戸屋では、地域活性化の足がかりにと集落で豊富に採れる山菜に着目した新たな試みです。料理長は溝内清さん（田代）が務めて、だらの芽、雪の下、藤の花など10種類以上の山菜を天ぷらに、地域住民など約20人に木戸屋産の山の幸を振舞いました。松原会長は「木戸屋には月岡玲子さんの『かずら工房』もあり、互いに活性化を図る第一歩として頑張りたい」と話していました。



山菜の天ぷらを振舞う料理長の溝内清さん(左)。会場の側には広大な堤が広がり、満開の藤を眺めながら会食を楽しむ参加者



新入学児童と在校生が向き合い、歓迎の言葉を代表で述べる山城優輝さん

待望の小学校生活スタート

町内各小学校で入学式

4月9日、町内6つの小学校で入学式が行われ、新入学児童138人が夢と希望を胸に小学校生活をスタートさせました。七滝中央小学校(村上孝利校長、61人)では、新入学児童14人を迎えての式で、村上校長が「お子さまの健やかな成長のため、職員一同全力をあげて教育にあたる覚悟です」とあいさつ。在校生を代表して山城優輝さん(七滝)が「小学校では遠足や水泳、運動会、見学旅行など楽しい行事がたくさんあります。友達をたくさんつくって一緒に楽しく過ごしましょう」と新しい仲間を歓迎しました。同校では、町内全域からの通学を認めた「小規模特認校」に平成21年4月から指定され、待望の児童が4人入学しています。豊かな自然を活かした魅力のある学校生活が、これから、この場所からはじまろうとしています。

毎年、多くの買い物客でにぎわう種イモ市



愛される種イモ市は高品質

春の伝統「種イモ市」

みふね春の風物詩「種イモ市」が4月1日から30日までの期間(5日おき)に御船川河川敷で開かれ、常連客などでにぎわいました。種イモ市は今から約370年前に、来迎寺(昭和保育園前の南付近にあった建物)を開山した顕空文海上人が産業の振興と仏教の教えを広めるために、春の彼岸に開設させた門前市から始まった伝統市です。主役の種イモは種類が豊富なおえ、品質がいいことも売りのひとつ。種イモを買い求めていた高野妙子さん(辺田見)は、「ここの種イモは質がよく安心して植えられる」と話していました。

林田能寛の遺徳をしのぶ

第24回林田能寛祭

4月4日、林田能寛祭が上野地区の八勢で林田能寛祭顕彰会(福味総一郎会長)の会員や地域住民が参加して催されました。妙光寺(滝川)の林田家墓地で供養後、会場を「八勢眼鏡橋」へと移し、桜の花びらが舞い散る中、能寛祭の神事などが執り行われました。

神事終了後には、医療法人ましき会(犬飼由貴子会長)から贈呈されたしだれ桜の苗木を、地元区長や関係者で植樹を行いました。牛嶋清一区長から「いただいた桜を地域で大切に育てていきたい」と感謝の言葉が述べられました。



贈呈された桜の苗木を植樹する関係者

田代東部に地域の拠点完成

田代東部分館落成式

4月25日、旧田代東部社会教育センター敷地内に建設された田代東部分館の落成式が行われ、地域住民など約50人が出席して完成を祝いました。同分館の建設は、平成20年8月に地域住民から御船町議会へ陳情書が提出され、建設の採択と定例議会での議決を経て、平成21年12月に工事が着工し、平成22年3月に竣工。構造は、木造平屋建て、延べ床面積約150平方メートル、総事業費約1,600万円となっています。式では、山本孝二町長が「東部分館の完成で地域住民の知恵を出し、創意工夫で素晴らしい地域をつくりあげて欲しい」とあいさつ。高松秀行田代東部分館長が「地域の殿堂、集いの場としての働きができれば公民館の意義も大きくなる。地域活性化の拠点として活用していきたい」と謝辞を述べました。



式で謝辞を述べる高松秀行田代東部分館長